

第 9 期吹田健やか年輪プランにかかる高齢者等の生活と健康に関する調査報告書
グループ協議まとめ
(R6～R7 に複数・多様な住民・団体等と検討・実施した取組み)

(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進

① 関心が低い人、行けない人をどうつなげていくか

● 居場所の工夫

- ・ふらっと立ち寄れる居場所(スーパーのイートイン、福祉施設でクールスポット)
 - ➡ コンビニのイートインを活用したスマホ相談会(千里 NT)
 - ➡ 市内特別養護老人ホームでのクールスポット設置に向けて吹田地区特別養護老人ホーム連絡協議会に相談(市域)
- ・時間や期間に縛られない(いつでも参加可能、出入り自由)
- ・買い物ついでに立ち寄れるなど普段の生活の場での居場所作り
 - ➡ 銀行で介護相談会の実施(豊津・江坂・南吹田、片山・岸部、千里 NT)
 - ➡ まちなかりビング北千里での多世代イベント開催(千里 NT)

● 取組み内容の工夫

- ・食事や食料に関わる内容
 - ➡ 大学の学食で世代間交流を企画(山田・千里丘)
- ・季節感のある催し(体育祭、盆踊り)は「ちょっと見にいってみよう」と思う高齢者も多い。
 - ➡ 気候の良い時期、お花見を楽しみながら、ぶらり散歩(片山・岸部、豊津・江坂・南吹田)
- ・男性の特徴(目的がハッキリしている、スキルを発揮できるなど)、女性の特徴(仲間意識、話好きに沿った内容)
 - ➡ 助け愛隊の実施(市域)
 - ➡ 地域版助け愛隊の実施(山田・千里丘)
- ・万博について話し合う(1970 大阪万博の思い出など)、万博をキーワードに地域のつながりづくりや地域の活性化、世代間交流
 - ➡ Softbank・大和大学産学連携プロジェクトでの取組検討(市域)

● 多世代との交流

- ・学生との交流(スマホ相談会など)
 - ➡ 高校生、大学生とスマホ相談会の実施(各地域)
 - ➡ 大学生と健康測定講座等での交流(片山・岸部)
- ・ラジオ体操などで幼児～小学生などの子どもも共に参加できるイベント
 - ➡ 子どもも共に参加するスタンプラリー(山田・千里丘、JR 以南)

②担い手をどのように増やすか

●住民以外の参画

- ・福祉事業所の力(強み)を借りる。
 - ➡スマホ相談会、地域検討会実施イベントに介護保険事業所が参画(各地域)
 - ➡サロン等まで行くのが難しい高齢者等を福祉施設の車両で送迎支援(山田・千里丘)
 - ➡福祉施設、人権協等で地域住民向けイベントを開催(片山・岸部)
- ・学生(中学生～大学生)の強みを活かす。
 - ➡スマホ相談会での講師、世代間交流を企画(各地域)
 - ➡みまもりあいアプリを活用したスタンプラリーの企画・実装(各地域)
- ・地域資源のコーディネートは生活支援コーディネーターが果たせるのではないか

●担い手＝団体役員(委員)にこだわらない

- ・団体(グループ)に所属しなくても、イベントの一部(スポット的な手伝い)を担ってもら
- ・豊富な経験や知識を持っている方の強みを発揮できる場で活動
- ・これまでに培ったスキル(昔取った杵柄)を発揮できる場
 - ➡助け愛隊の実施(市域、山田・千里丘)

(2)地域における支援体制の充実

- ・宅配等を行う事業所が地域で見守り
- ・子どもが参加すると必然的に親世代も参加する。子どもや保護者に向けたイベント企画するのも地域との繋がりを作るには良い方法
 - ➡「みまもりあいアプリ」を活用したスタンプラリーの実施(市域、JR以南、山田・千里丘)
 - ➡多様な世代が参画するイベントやフェアを開催(千里 NT)
- ・活動を継続することで、少しでも意欲のある方が集まり仲間が増える
- ・高齢者支援のキーとなる地域包括支援センターを知らない住民もまだまだ多い。
 - ➡水害に備えて自治会、市役所福祉総務室、包括、社協による「安心のまち岸部をめざして」会議で対応方法を協議(片山・岸部)
- ・地域包括支援センター入口の「見せ方」の工夫が必要ではないか。

(3)認知症施策の推進

①みまもりあいアプリの活用

- ・子どもの反応がいいと保護者も喜ぶ。子どもへのアプローチを通して保護者への関心を高める
- ・商店街でアプリを使ったイベントを企画することで、楽しみながら認知症の啓発を行える
 - ➡商店街等と連携してスタンプラリーの実施(JR以南、千里山・佐井寺、山田・千里丘)
- ・みまもりあいアプリの周知が必要。
 - ➡認知症みんなであつなげるプロジェクト(認知症カフェ交流会、吹田コスモスの会、市民主体型 DX 推進実行委員会、南山田地区福祉委員会・公民館)でチラシを作成・配布(市域)
- ・イベントを通して認知症になっても「住み慣れた地域で暮らす」という啓発を広める。
 - ➡市民主体型 DX 推進実行委員会構成団体によるアプリ活用推進を検討(市域)

②認知症の理解を深める取組

- ・9月の認知症月間(旧アルツハイマー月間)でのイベント実施や周知
 - ➔認知症みんなでつながるプロジェクト(認知症カフェ交流会、吹田コスモスの会、市民主体型DX推進実行委員会、南山田地区福祉委員会・公民館)による認知症啓発講座等の統一チラシ作成・配布(市域)
- ・認知症サポーター養成講座を受講した後に活動できる場があまりない
- ・吹田市内でチームオレンジ立ち上げ活性化
- ・認知症カフェなど認知症の方の居場所などの情報を専門職(支援者)に知ってもらう。

③家族負担の軽減について

- ・介護者家族が抱え込まずに相談や話ができる場の充実
 - ➔認知症当事者・家族の音声番組づくりの検討(市域)
- ・「認知症」の名称が入らない居場所(認知症に配慮したルールは必要だが)
 - ➔認知症の方も入りやすい店 MAP づくり(JR以南)

(4)生活支援・介護サービスの充実

- ・団塊世代が介護保険サービスを必要になる頃には十分サービスを受けられないのではないか心配
- ・若者が福祉の業界に関心がない。関心を持ってもらえるよう福祉ではないイベントからアプローチが必要
 - ➔北千里みんな de フェスタ、南千里ふくしフェア、介護フェア等の開催(JR以南、豊津・江坂・南吹田、千里NT)

(5)安心・安全な暮らしの充実

①在宅医療について

- ・在宅医療を受ける条件は？通院との違いは？どのような治療が受けられるのか？が分からない
- ・在宅医療に関する周知を強化する

②特殊詐欺被害の防止

- ・ICT化が進むと同時に特殊詐欺も増えている
- ・被害はお金だけでなく「子に知られると叱られる」といつまでも気持ちが落ち込んでいる
 - ➔スマホ相談会実施時に特殊詐欺の注意喚起を実施(各地域)